



学校だより

やまゆり

2026 年 10 月号

令和 8 年 9 月 30 日

横浜市立大口台小学校

神奈川区大口仲町 460

学校からのお知らせを学校HPや「すぐる」で日々発信しています(担当:副校長)

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/oguchidai/>

次につなげるために

校長 横尾 健之

見上げた夜空に中秋の名月を見つけることができました。青門にある金木犀の香りに秋の気配を感じています。

ある日のことです。教室で「〇〇さん、背中がピンと伸びていて、とても素晴らしい姿勢ですね。」と教師が褒めると、〇〇さんは、さらに良い姿勢をとろうとします。「〇〇さん、鉛筆で濃い字が丁寧に書けていますね。」と褒めると「次のページまで進んでいいですか。」と、予定していた範囲を超えて漢字練習をやりたいと言ってきます。

また、こんなことがありました。体育の授業で「〇〇さん、空中逆上がり（後方支持回転）ができるなんて素晴らしい。」と教師が褒めたのですが、〇〇さんは、嬉しそうな顔をすることなく、逆に空中逆上りを止めてしまいました。

褒めることは同じなのに、褒めた後の子ども達の学習に対する姿勢に違いが出ています。褒めて子どもがさらに頑張る場合と、褒めて子どもがやる気をなくす場合があるのはなぜでしょう。

考えてみたいのは後者です。教師は難易度の高い空中逆上りの達成をとらえて素晴らしいと子どもを褒めました。しかし、子どもの意欲を減退させてしまっています。困った教師は、鉄棒から離れた理由を子どもに聞きました。「空中逆上がりは前からできていた。一回転できるのは、自分にとって当たり前。自分は空中逆上りの連続技に挑戦していた。」と返ってきました。子どもが連続技に挑戦していることに気づかず、子どもにとって当たり前にできる技を評価したことで、やる気を減退させてしまったのです。子どもと教師の思いや評価の不一致が、この状況をつくってしまいました。

子どものめあてや思い、その取組の状況に寄り添った助言をすることで、前者の様な前向きなトライを生み出すことが考えられます。

学校では、10月9日に前期終業式を迎え、担任が学習や生活を振り返りながら、一人ひとりに前期の「あゆみ」を渡します。ご家庭に持ち帰った「あゆみ」をお子さんにご覧になる時、先ずはお子さんの「あゆみ」のとらえを聞く時間を大切にしていだけたらと思います。お子さんに寄り添った保護者の方の励ましが、後期の新たなトライをつくるものと願っています。

後期のスタートが希望に満ち溢れるよう、学校でも子どもに寄り添って支援していきます。地域、保護者の皆様、引き続き温かく子ども達を見守っていただけますよう、教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

